

# 昭和五十年国勢調査結果速報

昭和五十年十月一日国勢調査における20%抽出結果速報が総理府統計局より発表されました。この結果は推計値であるから標本誤差を含んでおり全数集計によって得られる結果数字とは必ずしも一致しません。(結果数値の一位を二捨三入しており下一桁は○又五とする。)

昭和五十年十月一日現在の当町の総人口は一万三千四百人で昭和四十五年より八百九十人増加しております。人口の年齢別構成をみると年少人口(〇〜十四才)が二

千七百四十人(総人口の二十一%)生産年齢人口(十五〜六十四才)が八千七百五十五人(総人口の六十七%)、老年人口(六十五才以上)が千五百四十五人(総人口の十二%)となっています。これらの年齢三区分別人口の割合は昭和三十年以後出生率、死亡率の低下により大きく変化し年少人口の割合は三十年の三十四%から急速に低下を続け四十五年には二十二%に低下し、老年人口は二十一%になった生産年齢人口の割合は年少人口とは全く逆の傾向で三十年は五十九

%から四十五年の六十七%まで上昇を続けたが五十年は同じでした。また老年人口の割合は三十年は七%四十五年は十%五十年は十二%まで上昇し人口の老齢化が進んでいるのがよくわかります。

就業者六千六百八十人をその所属する産業部門別にみますと農林漁業などの第一次産業に二千三百八十五人(就業者総数の三十六%)、鉱業、建設、製造業などの第二次産業に千六百三十人(就業者総数の二十四%)、商業、運輸、サービス公務などの第三次産業に二千六百六十五人(就業者総数の四十%)が従事しています。

産業部門別就業者の構成は戦後農業の衰退、工業化の進展に伴い著しい変ぼうを遂げています。特に第一次産業の占める割合は、昭和三十年には七十%に及んでいたが、その後急速に低下し、四十五年には四十八%、五十年は三十六%まで減少しました。これに對し第二次産業の割合は、昭和三十年はわずか六%であったが四十五年には十九%、五十年は二十四%まで上昇しました。第三次産業も昭和三十年の二十四%から急速に上昇し四十五年には三十三%、五十年は四十%まで占めることになりました。これからの見通しとしては第一次産業の衰退が進み逆に第三次産業の占める割合が大きくなると思われま

## 建設のあゆみ

### 9月~10月

#### 完成した事業

①建築工事	
上塚小増築工事	578.084m <sup>2</sup>
②道路舗装新設工事	
町道横芝3号線	560.0m
町道栗山区内線	382.0m
町道木戸台外一線	378.5m
町道牛熊~芝山線	691.5m

#### 着工及び工事中の事業

①野球場建築工事	
横芝町栗山	12,116.824m <sup>2</sup>
②道路舗装新設工事	
町道中台砂月区内線	712.0m
町道中台角田区内線	230.0m
町道栗山第2区内線	911.5m
町道栗山南部集会所入口線	200.0m



### 横芝句会九月例会

爽かに半袖の肌ふるる風  
石川 奇水  
松風の音の中なる四十雀  
土屋 栗舟  
稲刈りて田づらにしるき轍あと  
藤代 ゆう  
こぼれ萩掃き残しある校舎うら  
安井ゆずる  
秋園の日射しの中の白芙蓉  
池田 和代  
車輪までゆっさり垂れて稲つま  
れ 佐久間実枝子  
軸の書を問答しつつ枝豆を食う

三枝 句城  
ニンバイン稲田の位置につきに  
けり  
黙々と冷害の稲刈る夫婦  
古谷 紅雲  
戸部 澄江  
校庭の研植稲の実りかな  
木下石果子  
青立ちの稲穂に今日も冷気なる  
木下 孝子  
あいらしや身をゆすり鳴く四十  
雀 伊藤 保人  
稲の穂を握ってたしかむ早稲の  
出来  
鈴木 南知  
稲の穂の出に先立ちて畦を刈る  
次回 期日 十月四日  
兼題 秋刀魚・松の実

## 福祉手当など 一部改正

児童扶養手当や福祉手当などの社会福祉法に基づく諸手当の法改正が行われ、十月一日から改正料金が適用されます。

今回の改正は、特別児童扶養手当、児童扶養手当、福祉手当の三件で、特別児童扶養手当では障害の程度が中度の障害児一人につき一万二千元を一万三千五百円に、重度障害児一人につき一万八千元を二万三千元に引上げられました。

児童扶養手当(父母の離婚や父の生死不明などの理由で十八才未満児を母または母以外の者が養育している場合)では、児童一人目は一万五千六百円を一万七千六百円に、二人目は一万七千六百円を一万九千六百円に、三人以上の場合は一萬九千六百円にその児童のうち二人を除いた児童一人につき四百円(現行どおり)を加算、福祉手当(両手の指が全部ない者や補聴器を使っても音声の識別ができないなどの重度障害者が対象)では四千元が五千元にそれぞれ引上げられました。